

ののさまに、あげましょ、きれいなお花

ののさまに、あげましょ、きれいなお水

これは、仏教の保育園や幼稚園などで歌われることの多い、『ののさまに』という歌の歌詞の一部ですが、初めて聞いたとき、観音さま・のんのんさま・ののさまと変化をした、観音さまを讃^{たた}える歌だと思っていました。後に、「のの」とは神^{しんぶつ} 仏などを表す幼児語だと教わり、お釈迦さまのことを歌っているものだと知りました。

観音さまは、正式には「観世音菩薩^{かんぜおんぼさつ}」や「観自在菩薩^{かんじざい}」と呼ばれます。

私たち曹洞宗でお唱えするお経の中にも『観音^{かんのんぎょう} 経』や『般若心経』の中に、観世音菩薩・観自在菩薩として登場します。

お釈迦さまに次いで有名な仏さまの一人で、西^{さいごく} 国三十三カ所観音霊場や坂^{ばんどう} 東三十三カ所観音霊場という札所巡りに表されるように、私たちにとっても身近な仏さまです。

霊場巡りで表される「三十三」という数字、これは観音さまが私たちの苦しみを救うために、三十三のお姿に変わり、願いを叶えてくださると『観音経』に書かれていることに由来します。

観音さまというと、聖^{しょうかんのん} 観音のように、お顔は優しく すりとしたお姿を思い浮かべる方も多いことでしょう。また、千手^{せんじゅかんのん} 観音や十^{じゅういちめん} 一^{ぼとう} 面^{めん} 観音、馬頭^{ばとう} 観音など、様々な観音さまもおられます。それらすべての観音さまが、私たちの苦しみの声を聞き、苦しみの姿を見て、救いの手を差し伸べてくださるのです。

人が人である限り、悩みや苦しみは無くなることはないでしょう。ですが、少しでもその悩みや苦しみを和らげ、安らかになりたいと願うならば、観音さまを思い、観音さまを知り、他の人に対して観音さまのように振る舞うことから始めてみませんか。

そうすれば、いつしか他の人も観音さまのようになって、お互いに過ごすことが出来るのではないのでしょうか？